

令和5年度 学校自己目標

重点目標		評価項目と具体的な手立て	到達度のわかる目標(指標)	達成状況	成果○と課題▲	協議委員会からの意見感想等	今後の改善点
<p>鈴鹿市立鼓ヶ浦小学校</p> <p>学校教育目標 「知・徳・体 調和のとれた学校」 めざす学校像 「学校が楽しい、明日も来たい」と思える学校 めざす子ども像 (1) 自分も他者も大切にする子 「心豊かな子」 めざす子ども像 (2) 自ら学び、考えて行動する子 「学ぶ子」 めざす子ども像 (3) 地域に愛着と誇りを持つ子 「鼓の子」</p>							
<p>確かな学力を育む教育活動 (学力向上)</p>	<p>学力向上の推進</p> <p>・学力向上の核となる児童を中心に据えた授業スタイルを構築する。</p>	<p>・全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックにおいて、全国平均や県平均以上をめざす。→県比較 6年:算-7.0、国-7.0 5年:算1.2、国6.0、理科-4.0 4年:算-1.0、国9.8</p>	<p>○「授業中しっかりと話を聞き、積極的に考えようとしている」と答えた児童の割合が昨年度より3.2%向上した。 ▲県と比較し、昨年度より差が少なくなっているものの下回っているものが多い。考えをまとめたり、説明したりする問題について課題がみられる。</p>	B	<p>○「授業中しっかりと話を聞き、積極的に考えようとしている」と答えた児童の割合が昨年度より3.2%向上した。 ▲県と比較し、昨年度より差が少なくなっているものの下回っているものが多い。考えをまとめたり、説明したりする問題について課題がみられる。</p>	<p>・国語の結果はよい。 ・学調の県との比較差が昨年度より少なくなっていること及びこの項目に関するアンケートの回答が児童・保護者ともに昨年度より高くなっていることより、現在の取り組みで問題はないと思う。 ・自分の考えをまとめて説明する力をつけることが課題とのことだが、ステップアップ学習を活用できたと思う。 ・確かな学力を育む教育活動に関しては先生方の地道な活動に頼るしかない。状況は向上と記されているので、先生方の努力は評価したい。</p>	<p>・自ら考えられるように、学習課題に取り組みさせる際には発問や課題提示の仕方等を工夫して、見通しが持てるようにする。その上で、考えをまとめたり、説明をしたりする活動に取り組みさせる際には、ペア・グループ学習等を取り入れ、多くの考えに触れながら意欲的に活動に臨めるようにする。</p>
	<p>学習規律の確立</p> <p>・主体的・対話的で深い学びがある授業を確立する。</p>	<p>・「授業中しっかりと話を聞き、積極的に考えようとしている」と答えた児童の割合80%以上 →89.8%</p>	<p>○昨年度より3.2%高くなった。 ▲考えようとすることはできてきたが、自分の考えを言葉で表現することに難しさがある。</p>	A	<p>○昨年度より3.2%高くなった。 ▲考えようとすることはできてきたが、自分の考えを言葉で表現することに難しさがある。</p>	<p>・自分の考えをまとめるための時間を確保し、書くことで考えを整理できるようにする。その際の個別支援を大切にすること。 ・ペア・グループで交流する活動を設定し、言葉で表現する機会を増やしていく。</p>	
	<p>家庭学習の習慣化</p> <p>・その子に合うステップアップ学習の推進と、家庭学習・生活読書強化週間の定着を図る。</p>	<p>・「学校は宿題や課題を適切に与え、家庭学習の充実が図れるよう工夫している」と答えた保護者の割合80%以上。→96.1%</p>	<p>○昨年度より1.6%高くなった。 ○「家で進んで宿題をやっている」という児童の割合が昨年度より4.4%高くなった。 ▲個々に応じたステップアップ学習の進め方について指導していく必要がある。</p>	A	<p>○昨年度より1.6%高くなった。 ○「家で進んで宿題をやっている」という児童の割合が昨年度より4.4%高くなった。 ▲個々に応じたステップアップ学習の進め方について指導していく必要がある。</p>	<p>・家庭と連携して家庭学習習慣を身につけさせるための取組を推進していく。 ・ステップアップ学習の取り組み方についての指導、様々な内容に取り組みできるように取組例の発信を充実させていく。</p>	
<p>確かな学力を育む教育活動 (ICTの活用)</p>	<p>授業の中での活用</p> <p>・ICTを効果的に活用し、学習意欲を高めるとともに、学力の定着を図る。</p>	<p>・授業の中で1日1回はICT機器を活用する。</p>	<p>○昨年度よりさらにICT機器が子どもたちの身近なものとなった。 ○ICTを活用することで意欲的に取り組んでいた。 ▲授業において、ICT機器の授業規律を共有し、さらに効果的な使い方についての研究が必要。 ▲来年度は協働的な学びを取り入れていく。</p>	A	<p>○昨年度よりさらにICT機器が子どもたちの身近なものとなった。 ○ICTを活用することで意欲的に取り組んでいた。 ▲授業において、ICT機器の授業規律を共有し、さらに効果的な使い方についての研究が必要。 ▲来年度は協働的な学びを取り入れていく。</p>	<p>・家庭での保護者の支援・助言の実態はどのようなものか。 ・本年度の評価には異論はないが、「個に応じた学習」の目標が家庭の持ち帰り回数になっている。持ち帰るだけで学習していない児童もいるのでは。来年度は目標の見直しが必要では。 ・授業参観でICT機器を使い、社会見学などの発表をしていたのがとてもよかった。 ・ICTの活用は今の時代絶対必要と考えるが、手で書くことも大切。考えが古いかもしれないが、「覚えることは」やはり書くことではないかと思う。</p>	<p>・端末機器は画像の提示やプレゼンテーションなどに適している。今後も発表の場面など、保護者や地域の方にも見ていただける時間に活用していきたい。 ・端末機器を使うことと自分の手で書くことの両方をどちらかに偏ることなく内容や場面に応じて活用していく。</p>
	<p>個に応じた学習</p> <p>・ICT機器に親しみながら個に応じて学習することで学力を向上させる。</p>	<p>・家庭への持ち帰りを週に2回以上行う。</p>	<p>○家庭への持ち帰りについては概ね達成することができた。 ▲学力向上につなげたICT機器を用いた家庭学習について工夫する必要がある。 ▲復習型に偏っているため、予習型や連続型も取り入れていく。</p>	A	<p>○家庭への持ち帰りについては概ね達成することができた。 ▲学力向上につなげたICT機器を用いた家庭学習について工夫する必要がある。 ▲復習型に偏っているため、予習型や連続型も取り入れていく。</p>	<p>・家庭への持ち帰りを週に2回以上行う。</p>	<p>・家庭への持ち帰りを週に2回以上行う。</p>
<p>開かれた学校づくり (地域連携)</p>	<p>地域連携・地域ぐるみの教育</p> <p>・地域人材を活用したキャリア教育を推進する。</p>	<p>・児童アンケートで、「将来、なりたい職業や仕事がある」と答えた児童の割合80%以上 →82.7%</p>	<p>○日常的に地域のボランティアの方々の力を借りて教育活動を行っている。 ○昨年度より5.8%高くなった。 ▲地域の人々の得意分野が生きて活動を進めていきたい。</p>	A	<p>○日常的に地域のボランティアの方々の力を借りて教育活動を行っている。 ○昨年度より5.8%高くなった。 ▲地域の人々の得意分野が生きて活動を進めていきたい。</p>	<p>・地域の方々の得意分野が生きて活動をもっと行っていくか。 例として昨年の鼓ヶ浦海岸の自然観察など。 ・「地域連携・地域ぐるみの教育」の達成目標が「将来なりたい職業や仕事がある割合」になっていることに違和感がある。 ・色々な行事が行われるようになり、地域の人とのかかわりも増えてよかった。 ・地域の人材(スポーツ等)の講話の企画があるとよいのでは。 ・達成状況をみると向上は評価する。しかし、地域の方々が色々活動されていることを保護者はどこまで理解されているのか少し不安を感じる。</p>	<p>・地域の方々と一緒に活動する行事、生活科や総合的な学習で教えていただいたりする体験を通して、子どもたちは育つていくと感じる。取り組み方法を工夫しながら、地域の方と連携して体験活動を進めていくようにしていく。身近な大人と接することで、自分の夢に現実味をもてるようにしていきたい。 ・公民館の行事等の地域行事に興味を持つよう呼びかけていく。</p>
	<p>児童の自主的な活動</p> <p>・笑顔であいさつができる子どもの育成をめざす。</p>	<p>・「地域の人や家族、友だちや先生にあいさつをしている」と答えた児童の割合80%以上 →89.8%</p>	<p>○昨年度より4%低くなったものの、目標値は達成できた。 ○「地域に出かける活動や地域の方を招いた活動はためになり楽しい」と答えた児童の割合が昨年度より4.3%向上した。 ▲登校時に元気に挨拶をする児童に偏りがある。</p>	A	<p>○昨年度より4%低くなったものの、目標値は達成できた。 ○「地域に出かける活動や地域の方を招いた活動はためになり楽しい」と答えた児童の割合が昨年度より4.3%向上した。 ▲登校時に元気に挨拶をする児童に偏りがある。</p>	<p>・毎朝、地域の方々に挨拶をしていただくことで、子どもたちの挨拶の意識も育つていくように感じる。来年度も引き続き、児童会を中心に年3回のあいさつ運動を実施し、周りの人に笑顔で挨拶ができるような取り組みを行ってほしい。</p>	
<p>豊かな心を育む教育活動 (不登校)</p>	<p>自尊感情の育成</p> <p>・子どもたちの活動に「出番・役割・評価」の場や自他の違いや良さを認める場を設ける。</p>	<p>・「自分には良いところがある」と答えた児童の割合80%以上。→76.4%</p>	<p>○集会等において各々の役割に責任をもって、生き生きと活動できる児童が増えた。 ▲昨年度よりは1.8%高くなったものの目標の80%に届かない。</p>	B	<p>○集会等において各々の役割に責任をもって、生き生きと活動できる児童が増えた。 ▲昨年度よりは1.8%高くなったものの目標の80%に届かない。</p>	<p>・運動会準備等・後片付け等で積極的に参加できる子が少ないように感じる。どのように興味をもたせていくよいか。 ・道徳性・人権意識の育成の達成目標は「個別の支援計画作成、見直しを図る(6回以上の会議)」となるが、成果記入欄にはそれらが達成できたかの記載がない。 ・様々な活動の中で自分に自信をもてるようになったらと思う。</p>	<p>・集会や行事などの活動でめあての設定や振り返りを行う。反省点を話し次に活かす良い点を出し合ってお互いを認め合ったりする時間をとる。 ・たてわり班遊びや学級遊び班活動など関わる活動を行う。</p>
	<p>道徳性・人権意識の育成</p> <p>・特別な支援が必要な子を核とする人権教育を推進する。</p>	<p>・一人ひとりの違いに寄り添った学習支援のあり方を研究するとともに、個別の支援計画を作成・見直しを図る。(支援会議等を年回6回以上開催)</p>	<p>○必要に応じて適宜支援会を開き、個に応じた支援について考えあうことができた。 ▲一人ひとりにとってのよりよい支援について研修を進める必要がある。</p>	A	<p>○必要に応じて適宜支援会を開き、個に応じた支援について考えあうことができた。 ▲一人ひとりにとってのよりよい支援について研修を進める必要がある。</p>	<p>・スマートフォンでのコミュニケーションだけでなく、生のコミュニケーションを大切にしたい。 ・この件に関しては学校内部に入り込んでいないので、対処の方法がみえない。</p>	<p>・子どもも理解会議、レポート研修会を今後も継続して行っていく。 ・個にあったよりよい支援のありかたについて研修を行う。</p>
<p>安全安心な学校づくり (不登校)</p>	<p>安心できる学校づくり</p> <p>・安心できる居場所のある集団づくりに取り組む。</p>	<p>・「学校が楽しい」と答えた児童の割合80%以上 →85.0%</p>	<p>○昨年度より3.8%高くなり、目標値を達成した。 ▲「学校は、一人ひとりの人権を守る意識を高めようとしている」と答えた保護者が昨年度より4.9%低くなっている。</p>	A	<p>○昨年度より3.8%高くなり、目標値を達成した。 ▲「学校は、一人ひとりの人権を守る意識を高めようとしている」と答えた保護者が昨年度より4.9%低くなっている。</p>	<p>・子どもと親との意識の違いがある。 ・なぜ「学校は一人一人の人権を守る意識を高めようとしている」と答えた保護者が減少しているのか。その対策についてどのように考えているのか。 ・「いじめのない学校づくり」の目標が保護者の思いだけなことに違和感がある。具体的な対人トラブル件数とかいじめの未然防止件数の方が評価項目をより反映できると思う。 ・マスクをしない子が増え、コミュニケーションをより楽しめるようになったと思う。</p>	<p>・気になることをこまめに職員で共有し、対策を話し合う。 ・日々の活動の中で友達への発言、行動が相手のことを考えているか振り返る。授業参観のほか授業や取り組みの様子を通信等を使って保護者に発信していく。</p>
	<p>いじめのない学校づくり</p> <p>・いじめの未然防止と早期発見・即時対応に努める。</p>	<p>・「学校は、児童間の人間関係の確保に努め、いじめを許さない仲間づくりに努めている」と答えた保護者の割合(80%以上) →85.7%</p>	<p>○▲目標値は達成できているものの、昨年度より6.1%低くなった。 ○▲児童会が中心となり各学期にいじめをなくす運動を行い、啓発は進んだが、各学期では対人トラブルが何件もあった。本人、保護者と丁寧な話し合い、早期解決に努めている。</p>	A	<p>○▲目標値は達成できているものの、昨年度より6.1%低くなった。 ○▲児童会が中心となり各学期にいじめをなくす運動を行い、啓発は進んだが、各学期では対人トラブルが何件もあった。本人、保護者と丁寧な話し合い、早期解決に努めている。</p>	<p>・学級活動や学習活動の中で、役割を担い、自分の力が発揮できる場所と機会を設け、それを互いに認め合える指導を行う。 ・学級における仲間づくりに努め、子どもの様子を丁寧にとらえ、必要に応じて家庭訪問等を行い、保護者との連携を強化する。 ・学期に1回行ういじめアンケートの結果を受け、双方から丁寧に聞き取りを行い、その課題を学校全体で共有し対応に取り組んでいく。</p>	
<p>安全安心な学校づくり</p>	<p>防災避難訓練や安全教育等の実施</p> <p>・保護者や地域住民参加型の避難訓練や防災学習会等を実施する。(年3回)→4回(予定を含む) ・鈴鹿署や教育支援課と連携しながら、年間計画に則って防災教育や安全教育を実施する。</p>	<p>・保護者や地域住民参加型の避難訓練や防災学習会等を実施する。(年3回)→4回(予定を含む) ・鈴鹿署や教育支援課と連携して、交通安全や万引き防止、不審者対応、ネットモラル、薬物乱用防止教室等を開催する。(年3回以上)</p>	<p>○計画した避難訓練、各種教室をすべて実施できる予定。 ○ALSOKなど外部機関主催の教室開催を計画的に実施することができた。 ○雨天延期により2学期になったが、地域住民参加型の避難訓練を行うことができた。 ▲実際に地震が起こった時の対応をさらに具体的に地域とともに確認していくことが必要。 ▲実際には、児童は危険な自転車の乗り方をしており、実生活にいかにか結びつけるかが課題である。</p>	A	<p>○計画した避難訓練、各種教室をすべて実施できる予定。 ○ALSOKなど外部機関主催の教室開催を計画的に実施することができた。 ○雨天延期により2学期になったが、地域住民参加型の避難訓練を行うことができた。 ▲実際に地震が起こった時の対応をさらに具体的に地域とともに確認していくことが必要。 ▲実際には、児童は危険な自転車の乗り方をしており、実生活にいかにか結びつけるかが課題である。</p>	<p>・元日の地震で親も子ども避難訓練の重要性を感じたと思う。 ・稲生小への避難訓練に保護者ももっと参加すべきだと思う。 ・地域の人たちと学校屋上への避難訓練を実施してはどうか。 ・防災教育に関しては学校側でしっかり計画を立てていただき、地域の方々にも参加を求めた活動を盛り込んで欲しい。</p>	<p>・「防災ノート」を活用し、日常から防災についての意識を持てるようにする。 ・早い時期に稲生小への避難訓練を実施し、そこで行った地域の方々にも参加を呼び掛ける。 ・地震後の避難生活についての知識、理解、実践力をつけられる防災教育を進める。</p>

A-達成(関連児童・保護者アンケート項目の結果が80%以上の項目)
B-未達成(関連児童・保護者アンケート項目の結果が50%以上80%未満の項目)
C-課題あり(関連児童・保護者アンケート項目の結果が50%未満の項目)